

NGO 神戸外国人救援ネット・ニュースNo.47

NGO Network for Foreigners' Assistance KOBE NEWS No.47



発行／NGO 神戸外国人救援ネット(代表／飛田雄一)

〒650-0004 神戸市中央区中山手通 1-28-7 TEL&FAX:078-271-3270

ホットライン専用 TEL:078-232-1290

E-mail:gqnet@poppy.ocn.ne.jp * <http://www12.ocn.ne.jp/~gqnet/>

郵便振替<01100-2-60701 NGO 神戸外国人救援ネット>

★ 巻頭言★

インドネシアと日本の間で育った若者達との出会い

FM わいわい 日比野純一

インドネシアで半定住型の仕事をはじめて 1年半が過ぎました。ジャワ島中部の古都ジョグジャカルタの北にあるメラピ山という火山の裾野にあるいくつかの村落で、コミュニティラジオ局を活用した災害に強いコミュニティ支援を地元のNGOとともに取り組んでいます。まったくできなかったインドネシア語も、日常会話程度はやっとなじめるようになり、なんとか生活ができるようになってきました。

私が住居を構えているジョグジャカルタ市は人口60万人の中規模の都市で、郊外を含めたジョグジャカルタ特別州全体では340万人が暮らしています。そこには日本人／日系人のコミュニティがあります。ジョグジャカルタに多く暮らす留学生が入っていないため、構成メンバーは80人弱と少なく、インドネシア人の配偶者がほとんどです。

日本人／日系人のコミュニティの子ども達は、インドネシアと日本の両方の文化の中で育っています。日本人学校はなく、みんな、地元の学校に通っています。その中で、とくに二つの言語環境のもとで育つ子どもの言語形成に悩む家庭も多く、それは日本に暮らす移民の家庭と同じ状況にあります。昨年秋には児童心理学が専門の大学教員による「環境における言語発達と母語確立のタイミング」と題する講演会が日本人／日系人コミュニティの主催で開催されました。

こうした子ども達の良き相談相手となっているのが、小学校、中学校時代を日本で育ったインドネシア人の若者たちです。インドネシアと日本の二つの文化の中で生きる、小

学校四年から中学二年まで広島で育ち、インドネシアに帰った後に、ふたたび広島大学に留学をした経験のある一人が昨年、お好み焼き（広島焼きと大阪焼き）の食堂をオープンし、そこがグループの若者たちや日本人／日系人コミュニティ、そして日本からジョグジャカルタの大学に留学している学生たちの交流の場となっています。

こうした若者達は私達の活動も積極的にサポートしてくれています。ある時、その一人にその動機を訪ねると「子どもの頃に育った日本からやってきて人たちが、インドネシアの地域社会のために取り組んでいる社会活動に私たちも参加したいんです。ビジネスだけでなく」と熱く語ってくれました。そして彼はこう続けました。「日本に行ったときは、正直、最初はいじめもたくさんありました。でも、一生懸命、日本語を覚えて、対等のコミュニケーションができるようになって、友達がたくさんできるようになりました。それを応援してくれた人達のことは忘れません。大学生になって日本に戻った時に、小学校時代の仲間達が僕のために集まってくれたんです。今は僕にとってのもう一つの故郷になっています」。

インドネシアは中国に次いで二番目に日本語学習者が多い国です。そしてインドネシアから日本への移住する人の数は年々増加し、昨年末の統計で二万七千人を超えました。こうした移民が暮らしやすい日本になるよう、インドネシアでの経験を活かしていきたい、と思うとともに、外国人救援ネットの活動の大切さを強く実感しているこの頃です

アジア女性自立プロジェクト・NGO 神戸外国人救援ネット合同主催セミナー 「外国人 DV 被害女性の現状と課題—よりよい支援活動を考える」報告

鋤柄利佳

3月22日、兵庫県 DV 防止啓発活動支援事業としての上記セミナーを、アジア女性自立プロジェクトとの共催で神戸市男女共同参画センター(あすてっふ KOBE)にて開催いたしました。

近年、日本に暮らす外国人女性からの配偶者による暴力に関する相談件数が増加しています。外国人 DV 被害女性はどのような状況におかれ、そして、外国人被害女性への支援現場では、支援者、通訳者がどのような課題に直面しているのか。地域に根差して活動している相談者、通訳者の方々の体験を共有することを通じ、実際の支援現場の状況から外国人被害女性の現状を知り、よりよい支援のあり方を考えることが、このセミナーのねらいでした。

第一部では、NPO 法人女性エンパワーメントセンター福岡の代表である松崎百合子さんを講師にお迎えし、「外国人女性の DV 被害の現状と地域に根差した支援活動」と題した講演をいただきました。シェルター運営等の緊急支援から、移住女性のエンパワーメントをめざした自立支援まで、エンパワーメントセンターの幅広い活動の様子、現在に至るまでの活動の歴史、そして、代表の松崎さんの活動に寄せる熱い想いを感じるお話でした。松崎さんの「移住女性自身が社会変革の主体となっていくべく支援をしたい」との言葉が印象に残っています。

第二部では、相談員、通訳者、支援団体スタッフをパネリストに、「相談員・通訳者の経験から見る課題と解決案」をテーマにパネルディスカッションを行いました。救援ネット事務局の村西さんからは神戸の DV 相談の状況等の報告があり、そして、タガログ語、中国語の各通訳者からは、通訳者という立場から見た外国人 DV 被害女性支援の難しさなどを報告いただきました。さらに、女性エンパワーメントセンター福岡の相談員の方からは福岡での支援状況をご報告いただき、第一部に引き続き代表松崎さんにもご意見をいただきながら、それぞれの持つ課題を共有することができました。

参加者は登壇者も含め 22 名。セミナー終了後のアンケートには「現場の生の声を聞くことができ大変よかった」「通訳者の方々が感じる課題など違う視点も知ることができたことがよかった」との声があり、参加者の皆さんにとっても有意義なセミナーとなったようで嬉しく思います。



2013 年度

NGO神戸外国人救援ネット主催学習会



第2回 学習会の報告「改定入管法」

報告 寺下賢志

2013年11月30日(土)、神戸市勤労会館において午後1時30分より、「改定入管法」をテーマとして第2回学習会が開催されました。当日は、約30名の方が参加され、会場はほぼ満席状態でした。このことから、日本に住む外国人当事者はもちろんのこと、普段から外国人に寄り添って活動を行っている支援関係者や入管法に携わる有資格者等、いずれも関心が高いテーマであったことが伺えます。

第1部は、草加道常さんが講師となり「改定入管法施行から1年」と言うテーマでお話いただきました。なんと言っても「改定入管法」の最大の特徴は、「在留期間の最長期間が5年に伸長されたこと」「みなし再入国制度の導入」など、外国人にとって利便性が向上する点もあるものの、それ以上に「違反に対する処罰強化」や「在留資格取消の拡大」など、外国人に対する管理監視が強化された点にあります。2012年7月の全面施行から1年が経過し、今のところは当初心配されていたような過度な不許可・取消処分等は行われてはいないようですが、私たち支援関係者は今後も引き続き入管行政を注視していく必要があると感じました。

第2部は、高島ふさ子さんが講師となり「改定入管法・3年後の見直しに向けて」と言うテーマでお話をいただきました。新たな在留管理制度では、外国人登録法が廃止され、代わりに「改定入管法(特例法)」「改定住民基本台帳法」による管理が行われるようになりました。これに伴い、非正規滞在者や事情により短期滞在の在留資格となった者が住民票を失うこととなり、行政サービスが受けられなくなる可能性があるとの問題が紹介されました。それ以外にも、旧記録の証明書が発行されないなど、行政窓口の現場では様々な混乱が生じているとのことでした。

いずれの講師のお話からも、この「改定入管法」には様々な問題が含まれていることが分かりましたので、国会附帯決議に基づく3年後の見直しの時には、それらが改善されるような施策が実現するよう、私たち市民の声を上げていきましょう。

神戸YWCA主催 NGO 神戸外国人救援ネット共催

学習会テーマ「ベトナム人コミュニティ」2013年12月14日(土)神戸YWCA会館にて

神戸学生青年センター 都築和可子

新しくなった「ベトナム夢 KOBE」の代表ディエップさんがお話をされるということで、学習会「ベトナム人コミュニティ」に参加しました。「ベトナム夢 KOBE」の前身団体である「NGO ベトナム in KOBE」の設立経緯がまとめられたビデオをみたあと、「ベトナム夢 KOBE」の活動紹介、ベトナム人コミュニティの現状とコミュニティのかかえる問題をうかがいました。

■日本に来て何年もたつのに日本語を話せない人が多い

・ベトナム人コミュニティにいと、実際、日本語が話せなくても仕事はあり、また仕事に日本語を話す必要がほとんどないため、日本語学習の必要性をあまり感じないベトナム人は多い。

・仕事が休みの日に日本語学習クラスを開催しても、せっかくの休みだから家族と過ごしたいなど、なかなか学習意欲が高まらない。

■子どもたちの現状

・日本語を話さない高齢者が病院を受診する際、日本語を話す孫などを通訳として連れて行くため、孫はその都度学校を休まなければならない。子どもたちはベトナム語での日常会話はできるが、難しい内容の通訳(とくに医者とのやりとりなど)を子どもにさせて問題はないのだろうか？

・日本で生まれ育った子どもたちは学校では日本語を話し、家庭ではベトナム語を話す。長田区周辺には多くのベトナム人が生活しているが、「ベトナム夢 KOBE」の開催する母語教室に通う子どもは10名強である。

子どもたちがベトナム人であることを誇りに思って生活できるようにするには、多くの人にもっとベトナムのことを知ってもらうことが必要だとディエップさんは言います。子どもの成長にかかわる重要なテーマで、彼女の熱意を感じました。勉強会には20名ほどが参加し、ディエップさんが丁寧に一つ一つの質問にこたえられるので、30分設けられていた質疑応答時間では足りないほどでした。ディエップさんは今後もベトナムを知ってもらう活動を着々と続けていかれることと思います。



2013 年度ホットライン事業報告

2013 年度のホットラインの新規相談件数は前年と比較して一割ほど減っている。これはフィリピン人の相談の減少が反映されている。昨年はフィリピン人のキーパーソンによる新規相談が急増したが、それが一段落したことによると思われる。それでも一昨年と比較すると 113% だった。

相談の男女比は昨年と同様で 36.3% が男性であった。2013 年度も男性の相談が多い状態にとどまっている。労働相談の件数の増加が見られたが、労働相談の多くは男性からのものだった。

国籍別ではフィリピン人の相談が減少し、ブラジル人の相談が増加したのが特徴的だった。上位にあるブラジル、ペルー、中国の 3 カ国に変動はなかった。ベトナム人からの相談が増加したことも特徴的なことといえる。

相談内容では在留資格、家族関係が 1、2 位なのは変わらなかったが、DV 相談が第 3 位となり昨年の 2 倍となっている。DV 相談では家族関係、在留資格、社会保障にまたがった相談となることが多い。2013 年度は在留特別許可を求める相談が続いた。かつてのように日系を偽装して来日したというものはなく、元研修生や技能実習生という者が多かった。

教育の相談は昨年度と比べると少なかったが、いじめや教師の取り組み不足の結果、深刻な事態にまで至ったケースがあった。

DV ケースの相談や労働相談、教育相談では、弁護士や労働組合、行政書士、学校、行政機関など多くのところとの連携が必要となる。緊密な協力関係が重要になってくる。

【新規相談者数】 135名 【相談者性別】 男性：49名 女性：86名

【国籍別相談者数】

フィリピン	ブラジル	ペルー	中国	日本	ロシア	スリランカ	ベトナム	その他	不明
49	16	15	14	11	5	4	4	11	5

(その他：韓国、カメルーン、タンザニア、インドなど)

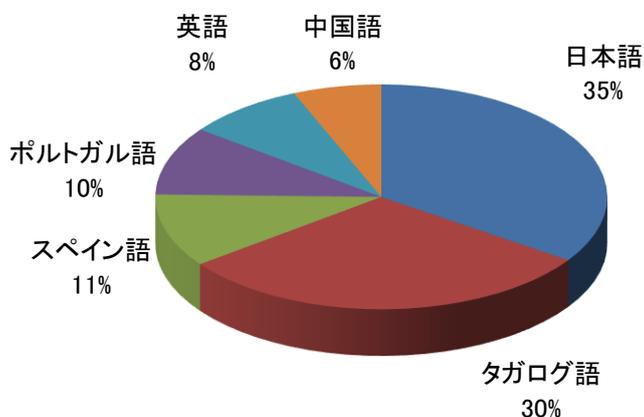
【相談内容】

在留資格	家族関係	DV	労働	社会保障	住居	刑事	通訳依頼	教育	医療	国籍	その他生活情報
45	34	16	12	11	7	5	4	4	4	3	29

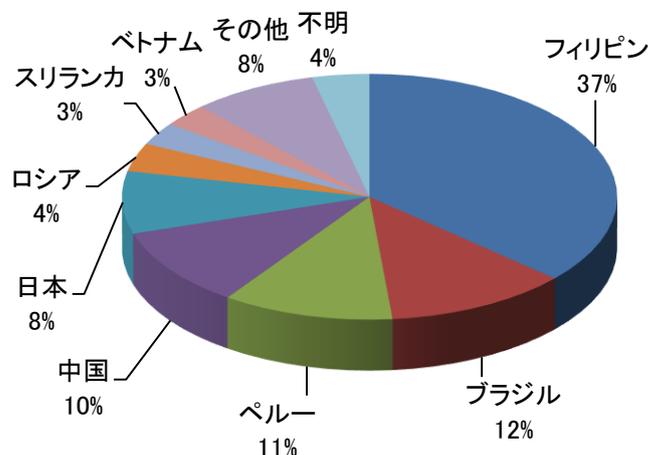
【言語別】

日本語	タガログ語	スペイン語	ポルトガル語	英語	中国語
49	43	15	14	12	9

【言語別比率】



【国籍別比率】



2013 年度同行通訳・同行支援事業実施報告

新規相談件数の総数はやや減少したが、相談内容別では DV 相談が 2 倍となっている。その結果、フォローアップの同行通訳・同行支援も前年比 150%となった。

DV 相談のフォローアップは家族関係、在留資格、社会保障にまたがったものが必要であり、2013 年度の同行先は法律事務所、市役所、福祉事務所、警察が前年と比べて大きく増加している。これは DV 相談が増加した結果といえる。また学校への同行が増加したことは、外国ルーツの子どもへの学校の対応力が低下していることと関係していると考えられる。国籍別ではフィリピン、ペルー、ベトナムが増加している。

DV 相談の増加に対応できるだけの同行通訳・同行支援事業の強化策が必要となってくる。

【同行件数】 187件 【相談者性別】 男性：29名 女性：158名

【国籍別相談者数】

フィリピン	中国	ペルー	ベトナム	ブラジル	日本	その他
108	27	12	7	5	1	27

【同行先比率】

弁護士	市役所	福祉事務所	相談者宅	学校	医療機関	警察等	裁判所	入管	労組	その他
72	31	28	16	15	12	12	8	7	2	24

2013 年度移動生活相談会実施報告



2013 年度の移動生活相談会を以下の通り実施しました。

◆ 兵庫県内における在住外国人のための移動生活相談会（住友ゴム CSR 基金助成事業）

①実施場所：カトリック尼崎教会

実施日：10月20日（日） 対応言語：中国語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、英語
通訳者5名、相談員2名、相談件数：0件

②実施場所：カトリック明石教会

実施日：2月16日（日） 対応言語：中国語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、英語
通訳者5名、相談員2名、弁護士協力：2名 相談件数：4件 相談者国籍：ペルー

③実施場所：カトリック明石教会

実施日：3月2日（日） 対応言語：中国語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、英語、ベトナム語
通訳者5名、相談員1名、弁護士協力：3名 相談件数：8件 相談者国籍：ベトナム、中国、ブラジル、不明

◆外国人のための無料法律・生活相談会（神戸まちづくり六甲アイランド基金助成事業）

実施場所：深江会館

実施日時：10月13日（日） 対応言語：英語、スペイン語、ポルトガル語、タガログ語、中国語
相談件数：3件 相談者国籍：フィリピン、中国、ブラジル

◆総合相談会（無料法律・生活相談会）（神戸まちづくり六甲アイランド基金助成事業）

実施場所：カトリック神戸中央教会

実施日時：12月6日（金） 対応言語：英語、スペイン語、ポルトガル語、タガログ語、中国語
相談件数4件 相談者国籍：フィリピン、レバノン



NGO神戸外国人救援ネット 2013 年度会計報告

(2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	¥628,181	生活相談事業費	¥2,574,955
会費および寄付金	¥881,621	同行支援事業費	¥1,286,830
委託費・補助金	¥3,416,692	その他事業費	¥502,075
助成金	¥700,000	印刷費	¥39,102
事業収入	¥16,000	消耗品費	¥24,632
その他の事業収入	¥289,440	通信運搬費	¥377,006
その他の収入	¥38,922	備品購入費	¥162,509
		保険料	¥30,236
		事務局手当	¥1,254,650
		他への寄付・会費	¥24,000
		立替金	¥5,985
預り金受け	¥47,000	預り金戻し	¥47,000
.....		
<収入小計>	¥6,017,856	<支出小計>	¥6,328,980
.....		
		収支差額	¥-311,124
		
借入金	¥1,236,000	2014 年度への繰越し	¥924,876
合計	¥7,253,856	合計	¥7,253,856

NGO神戸外国人救援ネット 2014 年度予算案

(2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日)

収入の部		支出の部	
会費および寄付金	¥700,000	生活相談事業費	¥2,350,000
委託費・補助金	¥2,760,400	同行支援事業費	¥980,000
助成金	¥2,000,000	その他事業費	¥800,000
その他の事業収入	¥500,000	印刷費	¥70,000
その他の収入	¥50,000	消耗品費	¥25,000
		通信運搬費	¥380,000
		保険料	¥30,236
		事務局手当	¥1,254,000
		他への寄付・会費	¥19,000
		借入金一部返済	¥100,000
		
<収入小計>	¥6,010,400	<支出小計>	¥6,008,236
前年度繰越金（借入金一部）	¥924,876	2015 年度への繰越し	¥927,040
合計	¥6,935,276	合計	¥6,935,276

2014 年度活動計画



- 1) 事務局体制
月、水曜日 11:00 ~ 19:00、金曜日 10:00 ~ 20:00 (事務局の対応時間は 13:00 ~ 18:00)
- 2) 多言語生活相談ホットライン(一部兵庫県委託事業)
毎週金曜日 10:00 ~ 20:00
対応言語: 英語、タガログ語、スペイン語(10:00~20:00)、ポルトガル語(13:00~20:00)、
中国語(13:00~18:00)
- 3) 兵庫県内各地での移動生活相談会
- 4) よりそいホットライン に協力。
- 5) 「外国人のための生活相談活動および問題解決のためのフォローアップ活動」
 - 1、相談活動
 - 2、相談者への支援とフォローアップ活動
 - 3、相談員の資質向上のための研修会開催、研修会等への参加
- 6) ネットワーク活動
移住労働者と連帯する全国ネットワーク
退去強制手続きと子どもの権利ネットワーク
DV 被害者支援連絡会議(HYVIS)
人種差別撤廃NGOネットワーク
- 7) 入管ウオッチャーズ(RINK, 大阪シナピス、GQ-net)
多言語による収容所ホットライン(金曜日 13:00~17:00)
- 8) 通訳者派遣、翻訳コーディネーター
- 9) ニュースレターの発行(5月、8月、12月)
- 10) 救援ネット 20 周年記念イベント/記念誌の発行
日時: 2015 年 1 月 10 日(土)午後 1~5 時 会場: 神戸学生青年センター
内容: 講演会、移住労働者と連帯する全国ネットワーク事務局長・鳥井一平さん

2014 年度 NGO 神戸外国人救援ネット運営委員及び協力弁護士

〈運営委員〉

飛田 雄一(代表、神戸学生青年センター)
 森木 和美(副代表、アジア女性自立プロジェクト)
 齋本 郁(監査、神戸公務員ボランティア)
 今給黎 真弓
 神田 裕(たかとりコミュニティーセンター)
 日比野 純一(FM わいわい)
 金 宣 吉(神戸定住外国人支援センター)
 北村 広美(多文化共生センターひょうご)
 李 相 泰(在日フォーラム)
 吉富 志津代(多言語センターFACIL、ワールドキッズコミュニティ)
 長嶋 昭親(兵庫日本語ボランティアネットワーク)
 寺下 賢志(申請取次行政書士)
 木谷 公士郎(カトリック社会活動神戸センター)
 草加 道常(NGO神戸外国人救援ネット相談員、RINK)
 村西 優季(NGO神戸外国人救援ネット事務局)

〈協力弁護士〉(順不同、敬称略)

石田 真美
 今西 雄介
 桑原 至
 坂本 知可
 佐藤 功行
 鄭 聖愛
 野田 倫子
 白 承 豪
 林 寛子
 韓 検治
 平野 晃子
 福田 大祐
 北江 康親
 増田 正幸
 増田 祐一
 松本 隆行
 梁 英子
 吉井 正明
 和田 壮史
 清田 美夏

NGO神戸外国人救援ネット 20周年記念イベントのご案内

1995年から活動を始めた救援ネットは2015年に20周年を向かえることとなりました。2015年1月に記念イベントを予定しております。救援ネットに関わる皆で集える場になればと思っております。

詳細はおってご案内いたします。是非ご参加ください。

日時：2015年1月10日(土) 午後1～5時

会場：神戸学生青年センター（神戸市灘区山田町3丁目1-1）

内容：【講演会】移住労働者と連帯する全国ネットワーク事務局長・鳥井一平さん
(2013.6 アメリカ政府が、身売買と闘うヒーローとして表彰)

<http://mainichi.jp/opinion/news/20130911k0000m070095000c.html>

【シンポジウム】【懇親会】

主な事務局活動

* 毎週（月・水・金）事務局開所、（金）多言語生活相談ホットライン

2014年

1月6日(月) GQネット運営会議

1月9日(木) GONGO 学習会参加 テーマ:雇用保険制度について

1月20日(月) HYVIS主催 兵庫県DV防止啓発活動セミナー実施

1月20日(月) GQネット運営会議

1月29日(水) ひょうご DV 被害者支援連絡会議 定例会

2月3日(月) 兵庫県女性家庭センター主催 通訳養成研修参加

2月10日(月) HYVIS主催 兵庫県DV防止啓発活動セミナー実施

2月10日(月) GQネット運営会議

2月16日(日) 明石市移動生活相談会実施

2月26日(水) ひょうご DV 被害者支援連絡会議 定例会

3月1日(土) シンポジウム「地域の日本人・外国人共生の試み」パネリスト（神戸YWCA 主催）

3月2日(日) 神戸市長田区移動相談会実施

3月10日(月) GQネット運営会議

3月22日(土) 外国人 DV 被害女性支援セミナー実施（AWEP/GQ ネット主催）



事務局活動時間について

★事務局活動時間は以下のとおりです。★

事務局開所時間：月曜日、水曜日、金曜日 13:00～18:00

生活相談ホットライン：金曜日 13:00～20:00

（英語、スペイン語、ポルトガル語、タガログ語、日本語、中国語）※中国語のみ18:00まで

NGO 神戸外国人救援ネットの活動は皆さんからの会費・カンパによって支えられています。
今後ともご支援とご協力のほどよろしくお願い致します。

郵便振替<01100-2-60701 NGO 神戸外国人救援ネット>

救援ネット年会費 2000円 年3回ニュースレターをお届けします。